



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：女性たちによる無言の抗議行動

(3月8日)

3月8日、改革派支持者がテヘラン市内中心部の広場などに集結し、無言の抗議行動を行った。これに先立ち、改革派勢力は3月8日と15日にデモを実施することを呼びかけた。

「国際女性デー」に相当する8日に、改革派勢力はムーサヴィー元首相夫妻とキャッルービー元国会議長夫妻の解放を求める名目で、テヘランでのデモ実施を計画したのである。これに対し、多くの女性人権団体や当局による弾圧で子どもを失った母親の団体などが参加を表明、事実上国外追放状態にある人権派でノーベル平和賞受賞者のシーリーン・エバーディー弁護士も、国外からデモ計画を支持すると発言していた。

改革派ニュースサイト「キャラメ」によると、8日、テヘラン市内数カ所に改革派支持者が集結した。その数は、女性を中心に少なくとも数千人に達した。大勢の治安部隊が警棒で追いかけるなどして市民を威嚇したため、大半の参加者は集団で声を上げることもできず、無言で歩くことにより抗議の意を示したという。反体制派の情報によると、抗議デモは、中部エスファハーン、南部シーラーズ、北部ラシュト、北西部ケルマーンシャーでも実施された。

3月に入り、アフマディーネジャード大統領が地方の遊説先で抗議行動に遭遇することも続いている。大統領は2日に西部ロレスタン州で演説したが、英BBCによると、会場に「我々は空腹だ。織物工場の労働者」と訴える横断幕が掲げられた。また、改革派サイトによると、大統領が訪れた南部ファールス州のスポーツセンターで7日、食肉加工会社を解雇された約50人が「腹が減った」「未払いの給与を支払え」などと叫んだという。

反政府デモを主導する改革派指導者ムーサヴィー元首相とキャッルービー元国会議長の自宅軟禁状態が続き、改革派を取り巻く環境は厳しさを増している（両者は妻とともに拘束され、拘置所に移送されたとの情報も流れたが、改革派ウェブサイトによると、ムーサヴィー元首相の在宅が3月8日に確認された）。加えて、3月8日、ラフサンジャーニー元大統領が専門家会議の議長職を退いた。ラフサンジャーニー師の影響力低下が新たな打撃となり、改革派勢力の弱体化が加速する可能性が高い。

欧米メディアや在外イラン人などは「エジプトやリビア情勢の余波で、イランの体制崩壊が近づいている」としきりに強調したが、イラン政府は強固な治安機構と革命防衛隊を有し、それを突破するだけの市民側の結束やエネルギーは生まれていない。加えて、地方や貧困層の間には、大統領やイスラム体制に対する支持がまだまだ根強い。イラン政府が取り締まりを強化し、反政府デモを徹底弾圧する一方で、改革派による反政府デモに参加する市民には疲れや無力感が漂い、強い反発よりもあきらめや運動の立て直しを求める声が目立ってきたとも報じられている。

(研究員 山崎 和美)